

「子どもと SNS との関わり方」

1990年代後半から徐々に利用率が増え始め、2000年に入って飛躍的に普及したインターネット。私たちが日々利用している SNS も、この頃に誕生しました。それから20年ほどで、多くの方々が利用するようになり、Facebookの世界ユーザー数はいまでは約29億人。これは、世界人口の約36%にもなります。自治体もアカウントを開設して災害情報などをいち早く市民に伝えることで、命を守ることにもつながっています。SNSはその即時性と拡散力から、もはや私たちの生活には欠かせない重要な「インフラ」となっています。

今の子どもたちを見ると、文部科学省が進める「GIGAスクール構想」で、インターネットや SNS に学校生活・私生活を問わず深く関わっています。インターネットの利用率では、小学4年生～高校生でほぼ100%です。デジタルネイティブと言われる、今の子どもたちにとって、インターネットや SNS は当たり前にあるものですが、その性質についてはしっかり理解できていないのではないかと考えています。特に注意しなければいけないことは、「パーソナライズ」です。SNSは、ユーザー検索履歴、いいねした投稿内容など、さまざまな要素から、ユーザーにとって興味のある情報だけを選んで表示する性質があります。そうになると、自分が投稿した内容について自分と似た意見ばかりが返ってくる状況になったり、見たい情報が優先的に表示され、ユーザーの観点に合わない情報から隔離されたりするような状況になります。

子どもが SNS を利用するにあたっては、使い方だけではなく、自分が望むと望まざるとにかかわらずパーソナライズされているということをしっかりと認識することが求められます。そして、保護者が子どもの意見を聞きながら、SNSのメリット・デメリットをしっかりと説明し、子どもが納得して利用できる環境を、子どもと一緒に作っていくことが大切だと考えています。

略歴

村上 幸司（むらかみ こうじ）

【学歴】

2002年3月 愛媛大学 教育学部 初等教育教員養成課程 卒業

【職歴】

2002年4月 大日本印刷株式会社 入社

2003年10月 株式会社テレビ愛媛（アナウンサー職） 入社

2011年4月 株式会社圭三プロダクション（フリーアナウンサー） 所属

2019年3月 国立研究開発法人国立成育医療研究センター（広報企画専門職）入社